

# みやこもりおか ねいち ひきめ 宮古盛岡横断道路（根市～墓目）における計画段階評価

## 1. 宮古地域の課題

### ①脆弱な道路ネットワーク

○対象区間は、通行止め時には代替路がなく広域迂回（通常の約1.9倍、H28年8月台風第10号直後の迂回）を強いられる（図1）。

○平成28年8月台風第10号では、道路決壊に伴う全面通行止め（最長11日間）が発生し、沿線集落が孤立（約3～5日間）（図2・3）。全面通行止め終了後も片側交互通行規制が継続、本復旧までに約2年半を要するなど、道路の施工面においても困難である急峻な地形状況。



図1 広域迂回



図2 平成28年台風第10号時の被災状況

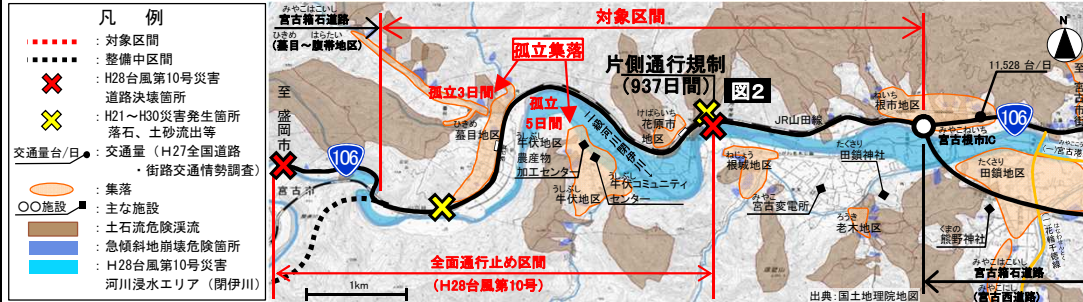


図3 国道106号の状況と主な被災箇所（通行規制発生）

### ②他地域に依存する三次救急医療

○宮古地域の多くは第三次救急医療機関が60分圏外であり、管外搬送先はほぼ全てを盛岡市に依存している（図4・5）。

**国道106号沿線地域ではほぼ全て盛岡市へ搬送**

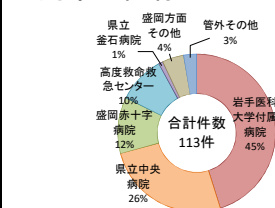


図4 宮古市内の管外搬送状況（H30）

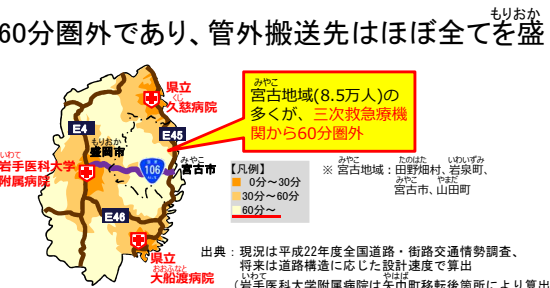


図5 岩手県内の三次救急医療機関の時間圏域

### ③沿岸部と内陸部の観光流動が不足

○岩手県では観光入込客数が伸び悩む中、復興道路等の新たな交通ネットワークを活かして外国人観光客の誘客や広域周遊観光の拡大による観光消費促進に取り組んでいるが、沿岸部と内陸部の観光流動は少ない。（図6・7）。

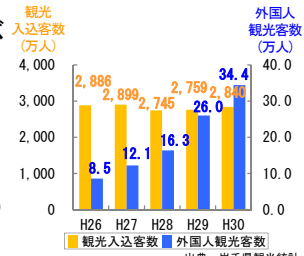


図6 岩手県の観光入込客数



図7 岩手県内の観光流動

## 2. 原因分析

### ①災害が発生する地形・地質

○対象区間は急峻な山地と深い谷地形からなり、土石流危険渓流が5箇所存在（図8）。

○当該地域の支配的な地質は混在岩であり、亀裂（節理）が多く発達し、岩片は硬質であるが細かく割れやすく、落石等の原因となっている（図9）。

○平成28年8月の台風第10号では、現道の河川との並行区間の湾曲部（水衝部）周辺への氾濫流の直撃、山側斜面の沢からの出水で大規模な道路決壊が発生（図10）。

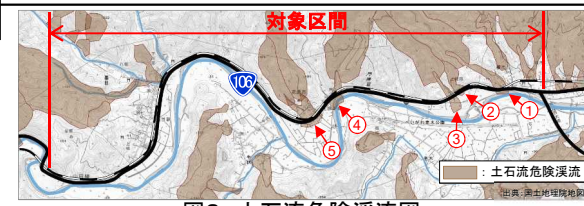


図8 土石流危険渓流図

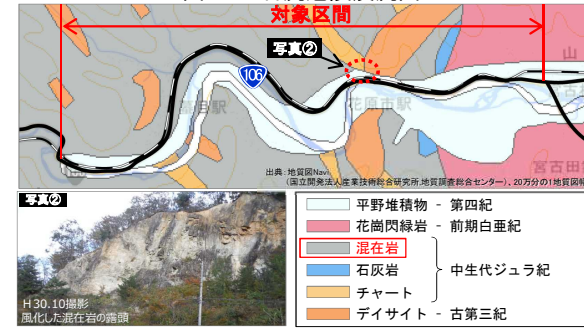
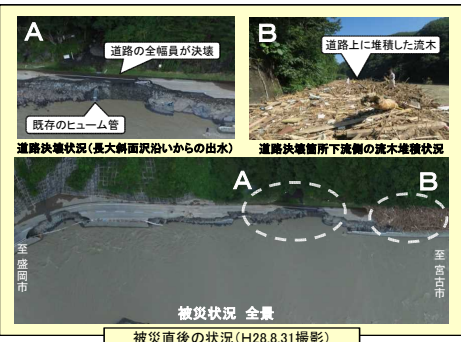


図9 地質図



被災直後の状況（H28.8.31撮影）

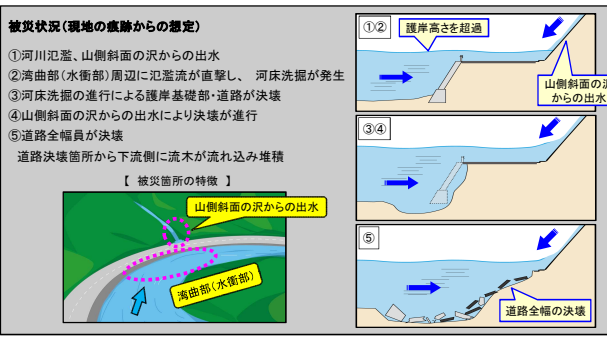


図10 被災箇所の分析（H28台風10号）

### ②医療拠点への低いアクセス性

○宮古地域には第三次救急医療機関がなく、脳梗塞などの重篤患者は約100km離れた盛岡市へ国道106号を利用し、2時間かけて救急搬送している状況。

### ③沿岸部と内陸部を結ぶ脆弱な道路ネットワーク

○沿岸と隣接する地域を結ぶ幹線道路は、復興道路等の新しいネットワークとして整備が進む一方で、県央と連絡し横断軸を形成する宮古盛岡横断道路は、未整備区間が残るなど脆弱であるため、観光流動を阻害している。

## 3. 政策目標

- ①自然災害に強く、信頼性の高いネットワークの確保
- ②高次救急医療施設へのアクセス性向上
- ③広域観光振興の促進

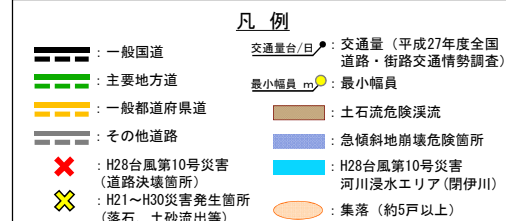
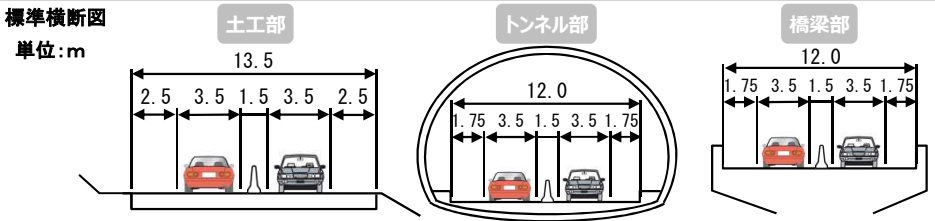


# 宮古盛岡横断道路（根市～墓目）における計画段階評価

## 4. 対策案の検討

比較案	【案1】河川並行ルート 全線新設案 約7km	【案2】河川渡河ルート 全線新設案 約7km	【案3】現道改良案 約7km
ルート案の要旨	河川との並行区間を回避するため右岸をトンネル主体で通過、孤立集落の解消や拠点施設へのアクセス性を重視したルート	河川との並行区間を回避するため左岸をトンネル主体で通過、隣接する宮古西道路へ接続するルート	河川兼用護岸の補強や法面対策等による現道改良
① 自然災害に強く、信頼性の高いネットワークの確保	○ バイパス整備により河川並行区間を回避	○ バイパス整備により河川並行区間を回避	△ 河川並行区間が回避されない
② 高次救急医療施設へのアクセス性向上	○ バイパス整備より代替ルートが確保され、アクセス性が向上	○ バイパス整備により代替ルートが確保され、アクセス性が向上	△ 現道改良は図られるが代替ルートは確保されない
③ 広域観光振興の促進	○ 宮古港やICへのアクセス性が向上し、速達性や定時性の向上が図られる	○ 宮古港やICへのアクセス性が向上し、速達性や定時性の向上が図られる	△ 宮古港やICへの速達性や定時性の向上が図られない
④ 災害復旧の容易性・交通規制が与える社会的影響	◎ 交通規制による社会的影響が少ない	○ 現道横断箇所の工事において交通規制が一時的に発生	△ 工事期間中の交通規制が長期化することから社会的影響が大きい
⑤ 孤立集落の解消	◎ 緊急退出路・避難階段を併設することで、新たに孤立集落（牛伏地区・根城地区・老木地区）の解消が図られる	○ 緊急退出路・避難階段を併設することで、新たに孤立集落（牛伏地区）の解消が図られる	△ 現状と変わらない
⑥ 施工性（参考）	トンネル・橋梁工事用の仮設備ヤードの確保が、比較的容易である	河川とJRに近接した急峻かつ狭隘箇所での工事となり、施工期間（時間）に制約を受けることから、施工性が悪い	河川とJRに挟まれた現道上での工事となり、仮設材の搬入設置・護岸補強作業などの施工性が悪い
⑦ 経済性（参考）	(概算工事費：300億)	(概算工事費：320億)	(概算工事費：250億) ※

※他ルートに対して規格の低い道路となる。  
今後の検討により線形改良や道路の高上げが別途必要となり高価となる可能性がある。



対応方針：【案1】全線新設案による対策が妥当  
 【計画概要】  
 ・路線名：一般国道106号  
 ・区間：岩手県宮古市田鎖～岩手県宮古市墓目  
 ・概略延長：約7km  
 ・車線数：2車線  
 ・設計速度：80km/h  
 ・概ねのルート：図11の案1の通り



(参考) 当該事業の経緯

■地元調整の状況

- 平成28年8月 台風第10号被害を受けた区間の調査を開始[県]
- 平成30年9月 第1回国道106号宮古地区防災対策検討協議会[県・国]
- 平成31年1月 第2回国道106号宮古地区防災対策検討協議会[県・国] → ルート帯案を決定[岩手県]
- 平成31年4月 直轄による権限代行実施の検討を行うための調査を開始
- 令和元年8月 地元説明会においてルート帯を提示[岩手県] → ルート帯を決定[岩手県]
- 令和元年12月 第1回国道106号宮古地区道路技術検討会[県・国]
- 令和2年2月 第2回国道106号宮古地区道路技術検討会[県・国]

■地域の要望など

- 平成30年7月 道路関係9団体が未整備区間の計画策定を要望
- 平成30年11月 宮古市長が国道106号宮古地区の直轄調査を要望
- 平成31年2月 宮古市長が国道106号宮古地区の直轄調査を要望
- 令和元年5月 岩手県知事が権限代行による新規事業化を要望
- 令和元年7月 宮古市長が権限代行による新規事業化を要望
- 令和元年10月 宮古市長が権限代行による新規事業化を要望
- 令和元年11月 岩手県知事が権限代行による新規事業化を要望
- 令和2年2月 岩手県知事、宮古市長が権限代行による新規事業化を要望

図11 宮古盛岡横断道路（根市～墓目）における対策案